

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ブリ

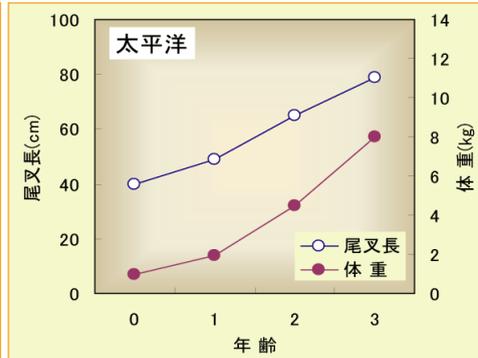
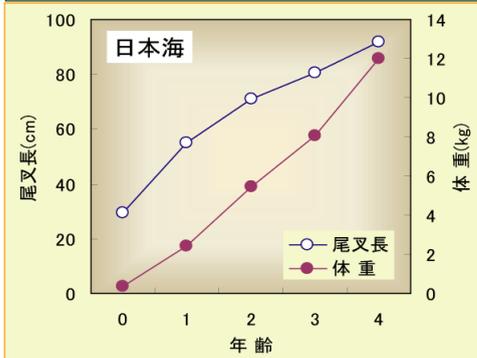
学名 *Seriola quinqueradiata*

担当水研 日本海区水産研究所
中央水産研究所



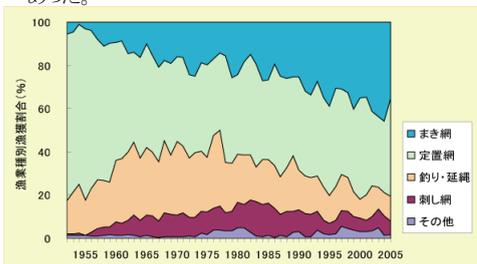
生物学的特性

寿命: 7歳以上
 成熟開始年齢: 2歳 (50%)、3歳 (100%)
 産卵期・産卵場: 冬～初夏 (2～7月)、東シナ海の陸棚縁辺部を中心として、九州～能登半島周辺以西および伊豆諸島以西の沿岸海域
 索餌期・索餌場: 夏～秋季、九州沿岸～北海道沿岸の東シナ海、日本海および太平洋
 食性: 仔稚魚は動物プランクトン、未成魚以降はイワシ類、アジ類などの浮魚、イカ類やオキアミ類の他、ヒイラギ、イサキ、ネンブツダイ、タイ類などの底魚
 捕食者: 流れ藻に付随する時期には共食いすることがある



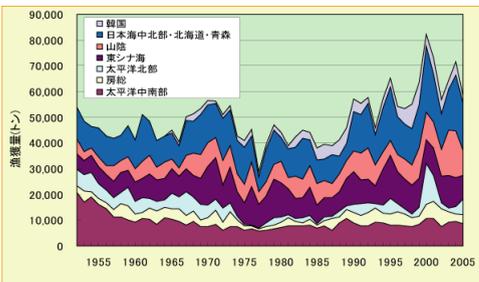
漁業の特徴

漁業の主体は定置網およびまき網であるが、まき網の割合は過去約50年間増加傾向にある。2005年の漁獲量は、定置網で45%、まき網で35%、釣り・延縄で12%、刺網で6%を占めた。海域別に見ると、東シナ海、山陰および外房では、まき網の割合が最も高く2005年はそれぞれ44%、66%、72%であった。日本海中北部から青森県と北海道に至る海域、太平洋北部および太平洋中南部では定置網の割合が最も高く、2005年ではそれぞれ72%、65%、63%であった。



漁獲の動向

1950～1970年代中盤には27千～55千トン、1970年代終盤～1980年代には漸減して27千～45千トン、1990年代には増加して43千～62千トン、2000年代にはさらに増加して51千～77千トンとなった。2004年の漁獲量は66千トンであったが、2005年では56千トンに減少した。韓国でも2004年の5千トンから2005年の3千トンに減少した。なお、ブリ類の漁獲量にはヒラマサとカンパチも含まれているが、その大部分はブリだと考えられる。

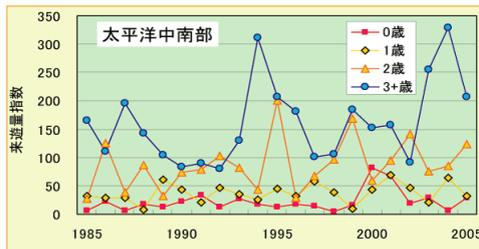
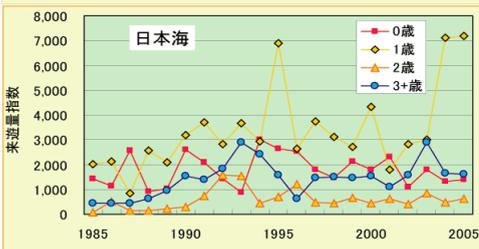
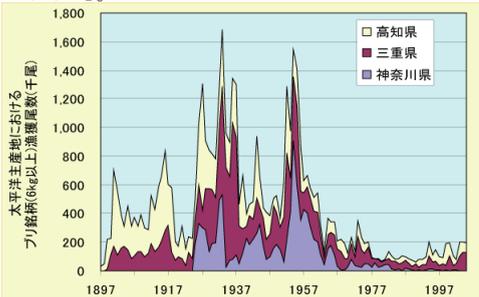
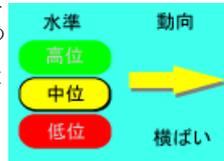


資源評価法

定置網の来遊量指数*1と年齢別漁獲尾数を資源量指数値とした。また、各漁業種における年齢組成の推移も資源の水準判断の材料とした。加入動向は、モジャコ指数*2の推移から判断した。
 *1来遊量指数: 過去20年間の主要定置網の年齢別漁獲量から求めた指数。値が大きいほど定置漁場へのブリ類の来遊状況が良い。
 *2モジャコ指数: 各年の流れ藻へのモジャコの付着状況を数値化して求めた指数。値が大きいほどモジャコの発生量が多い。

資源状態

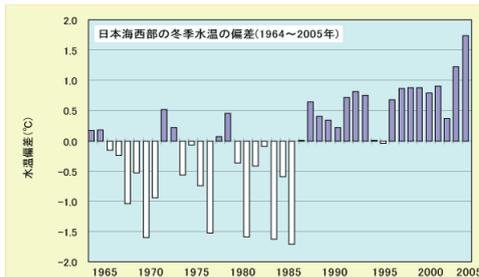
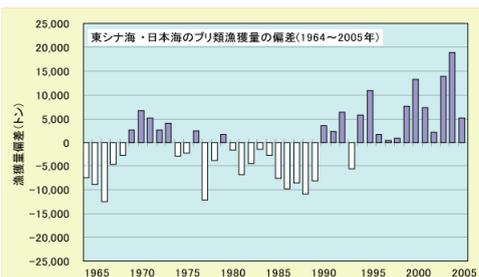
現在の漁獲量は1950年代以降では高水準にある。しかし、漁獲努力量が比較的安定していると考えられる定置網における漁獲量とブリ銘柄の漁獲尾数は減少していること、近年の漁獲物の年齢構成は1950年代より若齢魚に偏っていることから、現在の資源水準は1950年代以前より良いとは考えられない。一方、日本海中北部、北海道、青森県における定置網の直近20年間の漁獲尾数は安定傾向にある。また、日本海中北部および太平洋中南部の来遊量指数は、日本海中北部の0歳が20年間安定していることを除いて、各年齢ともに1990年代以前よりも高く推移している。また、2000年以降のモジャコ指数は比較的安定している。



管理方策

1950年代以降、定置網における大型魚の漁獲尾数の減少とまき網による漁獲量の増加が進行しており、0歳と1歳の若齢魚を主体とした漁獲形態が資源の年齢構成に影響を与え、大型魚の漁獲尾数の減少を引き起こした可能性が考えられる。一方で、日本海の冬季水温と東シナ海および日本海の漁獲量には正の相関があり、1990年代以降は日本海の冬季水温が高めに推移していることから、現在の海洋環境は大型ブリの来遊に好適と考えられる。1960年代以降の漁獲は、1歳以下の未成魚が大半を占めている。加入あたり漁獲量を増加させるためには、1歳以下の未成魚の漁獲を減少させる必要がある。ABClimit は、過去3年間の平均漁獲量に0.9を乗じて算出した。さらに0.8を乗じた漁獲量をABCtargetとした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	55千トン	0.9Cave3-yr	-	-
ABCtarget	44千トン	0.8・0.9Cave3-yr	-	-



資源評価のまとめ

- 現在の資源水準は1950年代以前より良いとは言えない
- 日本海中北部、北海道、青森県における定置網の直近20年間の漁獲尾数は安定傾向にある
- 日本海中北部および太平洋中南部の定置網への来遊量指数は、日本海中北部の0歳の安定傾向を除き、各年齢ともに1990年代以前よりも高く推移している
- 2000年以降のモジャコ指数は比較的安定している

管理方策のまとめ

- 0歳と1歳の若齢魚を主体とした漁獲形態が資源の年齢構成に影響を与えた可能性が考えられる
- 我が国の主漁場である日本海の現在の海洋環境は、大型ブリの来遊に好適と考えられる
- 1960年代以降の漁獲は、1歳以下の未成魚が大半を占めている
- 加入あたり漁獲量を増加させるためには、1歳以下の未成魚の漁獲を減少させる必要がある

資源評価は毎年更新されます。